

2013年(平成25年) 4月11日(木曜日)

7

地域ワイド3

【大阪】近畿各地では次々と桜が見頃を迎え、

呼吸症候

法人ヘルスケア SAS 匠



啓発カレンダーで薬の正しい服用を呼び掛ける

花粉症対策

日ごとに気温も上がり、過ごしやすい季節になってきた。しかし、春は花粉症に悩む人にとってはつらい時期でもある。目のかゆみや鼻水、くしゃみ、治療薬の影響について

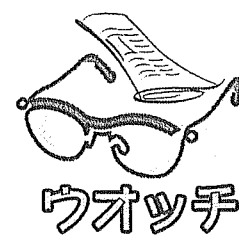
正しい知識で安全管理

薬の副作用に要注意

みといった症状を伴う花粉症は、自動車の運転に及ぼす影響が大きいにもかかわらず、運送会社の社長や管理者からは「特に対策は講じていない」といった声が多く聞かれる。

気や集中力の欠如といった人間の能力ダウン（インペアド・パフォーマンス）の危険性を早くから指摘。2年前に薬の正しい服用を啓発するポスターやカレンダーを作成し、「健康管理で事故防止を」と呼び掛けている。

日本人の3割が花粉症に悩まされているといわれ、トラックドライバーのほぼ3人に1人が患者の可能性がある。作本氏は「症状が出たら必ず医師の診察を受け、プロドライバーであることを伝えた上で運転への影響が少ない薬を処方してもら



よって異なる。最近では眠くならない治療薬も多く開発されており、ドライバー一人ひとりがどの時期にどんな薬を服用しているか、きちんと把握し

(小栗 史和)

ておく必要がある。運輸の安全に対する社会の関心が高まる中、運送事業者や運行管理者は「たかが花粉症」と軽視せず、睡眠時無呼吸症候群(SAS)などと同様に、症状や服薬が運転に与える影響を正しく理解するとともに、必要に応じて医師の診察を受けさせるなど、健康管理をドライバー任せにしないことが重要だ。トラックや関連機器の技術がどれだけ進歩しても、安全運行の第一歩はドライバーの健康管理である。